

Key word 【脳卒中片麻痺】 【失語症】 【一般就労】

就労に向け、訓練の中で本人の得意不得意を分類した事例

対象者 30歳代・男性 主診断名 脳出血 障害名 右片麻痺・失語症

失語症に対する意思疎通訓練



- 日常生活での簡単な意思疎通が可能なものの、相手側の推測が必須な状況。
- 積極的な会話練習を実施。推測できた内容も本人と確認を行っていく。

就労を見据えた作業活動の選定



- 病前もパソコンを使用したことがなく、苦手意識が強いうえ、失語症の影響により、文字入力作業が困難。
- 活動の中で本人の得意不得意を分類し、能力を活かせる仕事の種類を増やす。

Point!!

- 現状できている部分と代替手段で行える部分をどう活かして就労に繋いでいくか。
- 訓練の中で、できないことの改善だけでなく、できることを伸ばしていく、見つけていくことで本人も自信が出てくる。
- 意思の表出について、言葉では上手くできないが、文字ではできる方もいる。補助機器も含めて、できる方法を検討していく。